

アーチルニュース ちえなっぶ

発行元：仙台市発達相談支援センター 〒981-3133 住所：仙台市泉区泉中央2丁目24-1
TEL：022-375-0110 FAX：022-375-0142 e-mail：arch1@luck.ocn.ne.jp
http://moc.istu.jp/n_town/hattatsu/index.html

新たな一歩をふみ出すために

今回は、アーチルでの初回相談後に実施している初期療育グループに参加した保護者の方々の声をお届けします。お母さんたちは、それまで予測してなかった「障害があるかも？」という不安に直面し「なぜ私の子が？」「育て方が悪かったか？」という自問自答のなかで出口のないトンネルに入ったような気持ちになります。そこからどのようにして新しい一歩をふみ出すことができるのでしょうか。

障害とわかったときの苦しみには、自らの中に生じる苦しみと、他者（社会）から負わせられる苦しみがある。これらの苦しみをどのようにして受け入れていくのかという方法が十分に確立されているわけではないが、障害受容の代表的な考え方を2つ紹介しよう。1つめは、障害をもつことが「人間的価値を低下させるものではない」という肯定的な見方をもてるとする価値転換論である。2つめは、ショック、否認、混乱、解決への努力といった心理的段階を経ることによって受容に至るというステージ論である。これらの理論ではいずれも当事者の主体性が強調されるが、価値観や心理状態を当事者だけで変えるということは「言うは易く行は難し」である。

私は、当事者だけが変わることを求めるのではなく、社会の見方も変えていく必要があると考えます。「なぜ私の子が？」の自問から「障害があっても私の子に変わりがない」と変化することは、社会的孤立や排除の中では非常に困難であると考えます。アーチルのスタッフがこの苦しみをまるごと引き受けていくことはできませんが、寄り添いながら社会的に孤立や排除されることのないような取り組みをしていくこと、差別と偏見をなくすために障害への理解を促進していくことは努力できると思います。アーチルでの初めての相談後に親子で通う初期療育グループもその場の1つといえると思います。

初期療育グループでは、仲間同士の出会いと話し合う場を大切にしています。その理由は、同じ苦しみや悩みをもつ仲間との話し合いの中でこそ「自分の存在を肯定できるようになり一歩まえに進めるようになる」ということを伺うことや元気を回復していくお母さんたちの姿を確認させて頂いているからです。初期グループを終えたお母さんたちは、自主グループをつくり活動をしています。このグループの結びつきもきっと、こどもの成長に必要な取り組みへの新たな一歩をふみ出す拠点となってくれるのではないかと考えております。

今年度は現在までに、初期療育グループには、0歳から3歳までの170組の親子が参加しています。また、応援団として41人の先輩お母さんがグループのミーティングに講師として参加してくれています。これらの先輩お母さんたちも自ら経験を語ることによってさらに力を回復しています。まさに「援助するものが最も援助をうける」です。これらの先輩・後輩お母さんたちが地域でお互いが支えあう関係をつくっていってくれることも社会を変えていくために一歩ふみ出す活動です。

所長 末永 カツ子

新たな 出会いから

一歩！ ふみ出して

アーチルが開所して3年、相談や初期療育グループで多くの保護者の方や子ども達との出会いがありました。我が子の発達に問題があるのではと気づき始め、落ち込み、怒り、涙が止まらない保護者を前にして、日々、アーチルがすべきことは何かを考えさせられています。

初回相談後に親子で参加してもらっています療育グループでは、いろいろな遊びを通して子どもの姿を見つめ、日々の対応について考え合っています。また、「これからの一歩をどうふみ出すか」考え、子育ての道を見つけていけるように、同じような悩みを持つ保護者同士・子育ての先輩との出会いを作っていくことを大切にしています。今回は保護者の生の声をお届けいたします。

アーチルで出会った お母さんたちの思い

なぜ私の子が？

他の子と比べてしまい、
外に出るのが嫌だった

自分の育て方が悪いの？

泣いてばかりいた
とにかく大変だった。

どうして他の子と
同じようにできないの？

不安は消えないが・・・

障害と分かりショックだったが、その反面「育て方ではない」と分かってホッとした。もっと早く相談に来ていれば良かったと思った。不安は消えないが、相談できる人、場があることが嬉しい。今は子どもの成長がわかるようになり、自閉症が悪いものではないと思えるようになった。

(母子通園に通うU.Rくん3歳のお母さん)

自分を責めていたけど・・・

他の子のようにできないのは「接し方が悪いからではないか」と自分を責めていた。同じ思いのお母さんたちと出会って話し合い、自分の子育てはこれで良いと実感した。子どもの一生懸命育とうとする姿がいとおしく、自分がよき理解者になって行こうと思った。そう思うと自閉症とわかってよかったと思える。

(母子通園に通うK.Rくん4歳のお母さん)

子どもの育ちを待ちながら・・・

子どもの障害が分かったこと、そのことを母親同士包み隠さず話せたことで自分自身がイライラせずに子育てするようになった。「焦らず、叱らず、子どもの育ちを待つこと」が大事だとわかった。子どもの成長に気づけるようになったことが嬉しい。今は福祉サービスも利用している。

(母子通園に通うT.Aちゃん3歳のお母さん)

子どもに合った環境を・・・

障害と名前のつく施設に通うことに抵抗があったが、たんぼぼホームや統合保育に通い子どもは育っていくことを実感した。すぐに形になって現れないが、子どもに合った環境での関わりは子どもの中に絶対に積み重なっている。今やっていることが土台になり育っていく。育つ子どもを見て自分も自信を持って生きていこうと思うようになった。

(保育所に通うS.Kくん5歳のお母さん)

母子通園・保育所に通って

療育グループから 自主グループへ

じゃがりこの会 (10組の親子が参加)

初期療育グループでの出会いがきっかけで、グループが終了した後毎月1回集まっています。皆それぞれ母子通園に通っていますが、同時期に障害の診断を受けた親子にとって、心置きなく話せる場や日々のストレス解消の場にもなっています。悩みや不安は同じ障害のある子を育てているお母さんたちに話すことで安心します。

(代表 母子通園に通うK.Yくん3歳のお母さん)

カスタネットママ (4名の保護者が参加)

療育グループで知り合ったお母さん達と初めて本音で話せた。療育グループが終わってそのままではもったいないと思い、集まりの会を作りました。幼稚園のお母さん方には話しにくいことでも同じ境遇で何でも話しあえる仲間に出会えた。受身ではなく、自分で行動しなくてはいけないこともわかった。母親同士で毎週色々な話をし、母の疲れを癒す場所ともなっている。

(代表 幼稚園に通うH.Tくん5歳のお母さん)

あの時に知りたかったことを伝えたい

自分が初期療育に参加していた頃は先輩お母さんの話を聞く機会がなかったため、他のお母さんたちにどうだったか聞いてみたら、もっと具体的なことを聞きたかったと言っていた。自分も、あの時こういう情報を知っていたらなあ、と今だから思うことがたくさんある。あの時の自分と、今は何が知りたいのかもわからないお母さんたちの代弁者として、「先輩お母さん」としてグループに話をしに来ている。

(幼稚園に通うI.Tくん5歳のお母さん)

後輩を応援したい

前に一歩ふみ出すために

相談時に我が子の状態についてきちんと説明がなかったため、どのような特徴があるのか気持ちが割り切れずいたが、はっきりと告げられたことで辛かったが前に進めるようになった。様々な人との出会いが自分を支えてくれたことから、自分も恩返しをしたいと「先輩お母さん」として初期療育グループに来ている。グループで出会ったお母さんたちから元気をもらえることが嬉しい。

(保育所に通うB.Kくん6歳のお母さん)

前を向いて一歩ふみ出そうとするきっかけや時期は一人ひとり違いますが、多くの方との出会い(特に同じ思いの母親同士の出会い)の中で、「我が子の育ち方の特徴が分かったこと」「子どもが確かに成長していくことが見えたこと」等がきっかけとなっています。このような変化や生の声をうかがいますと、支え合う仲間を増やし保護者自身が力をつけていくことの大切さを感じます。その機会を作っていくことがアーチルの役割だと考えています。今後も地域で安心して子育てしていけるように、利用してくださる方の声を受け止め、たくさんの「かけはし」を作っていければと考えています。

かけはし

「アーチル」とは「アーチ (arch: 橋)」と「バル (bal: 仲間)」とをかけたもので、センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め、市民公募によってつけていただいた愛称です。このコーナー「かけはし」は、読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう、皆さんや職員からのメッセージなどを掲載していきたいと思えます。



もうひとつの出会い

ちょっとホット講座誕生

「アーチルに来る以外の日に地域の遊び場をもっと活用できないか」と初期療育スタッフが児童館や市民センターに出向いたことがきっかけで**中央市民センター**に「**ちょっとホット講座**」ができました。アーチル初期療育グループに通うお母さんたちを対象とした託児付き講座です。

今年度は「昔語り」「秋色コーディネート」「ワン・ツー・エアロビクス」の3回です。アーチルスタッフも託児ボランティアとして参加。

「久しぶりに笑った!」「こんなにゆったり過ごせるなんて!」「いつも冷や汗など別な汗ばかりかいていたけどすっかり汗がかけたのは久しぶり!」「普通のくらしがしたい」参加したお母さんたちからこんな声が届いています。

続報：ライフサポートファイル

4号のちえなっぶ紙上でご紹介したライフサポートファイルについての続報です。乳幼児期から学齢期そして成人期へと必要な情報をスムーズに伝えることができ一貫した支援を受けやすくするためのファイルを考案中です。実際に使う人たちが使いやすくしようと、お母さん達とアーチルのスタッフとで一緒に作り上げることにしました。12月の初めから乳幼児期、学齢期、成人期のさまざまな発達障害を抱える子どものお母さん達6人が活動を開始します。

私立幼稚園連合会の研修会がアーチルとの共催で開催!

8月19日午前中は『軽度発達障害児の理解と支援』というテーマでアーチル職員が講師となって知的障害のない自閉症やADHDなど、いわゆる軽度発達障害児の基本的な理解を再確認しました。午後は、2つの幼稚園から、同じ高機能自閉症と診断されている子ども達への具体的ななかかわり方の工夫や集団の中での成長についての報告がありました。

今、たくさんの幼稚園にさまざまな発達障害を抱えた子ども達が入園しています。今回の実践報告からは昨年度、アーチルの療育(幼児)グループを通して得た知識を、幼稚園の生活の実情と一人一人の子どもの特徴に合わせて活かして下さっていることがわかります。

最後のグループワークには、アーチルの相談員、療育スタッフら7人も参加し、幼稚園の先生方とともに、発達障害を抱える子どもとその家族を支えていくためには何が必要なのか、活発な話し合いがなされました。今後、この研修会に参加した先生達が中心となって、各区で定期的な研究会を立ち上げていくための準備をしていく予定です。

編集後記

初期療育グループも3年生になりました。悩み検索する日々ですが、これまでの参加者より「今だから分かること、言えること」のメッセージをいただいたり、一緒に考え合える関係ができてきて心強く、嬉しく感じています。

厳しい声も、励ましの声も支えにし、より良い存在となることを目指し、明日もがんばろう!と夜空を見上げる毎日です。

次号は成人期の特集を予定しています。 (本田・渡部)